令和４年度第１回 嘉飯圏域定住自立圏共生ビジョン検討会議　議事録

■ 日時：令和４年８月 31 日（水）15 時から　　場所：飯塚市役所本庁５階　研修室

■ 出席委員：14 名（5 名欠席）

飯島委員、澁田委員、村上委員、藤川委員、香月委員、大田委員、淺田委員、實藤委員、髙石委員、佐竹委員、皆越委員、山﨑委員、野上委員、和田委員

１　開会（進行：飯塚市　総合政策課長補佐）

２　会長、副会長の選出

共生ビジョン検討会議設置要綱第５条の規定に基づき互選した結果、会長に澁田委員、副会長に飯島委員を選出することに決定。

３　定住自立圏構想の概要等について（進行：澁田会長）

飯塚市　総合政策課長から説明。

４　議事

（１）連携事業の令和３年度実績等について

【説明】

連携事業番号①～③：飯塚市 健幸保健課長より説明。

連携事業番号④～⑨：福祉部会長（飯塚市 高齢介護課長）より説明。

連携事業番号⑩：教育・文化部会長（飯塚市 生涯学習課長）より説明。

連携事業番号⑪、⑫：産業振興部会長（飯塚市 産学振興担当主幹）より説明。

連携事業番号⑬（休止中）、⑭：事務局（飯塚市 総合政策課長）より説明。

連携事業番号⑮、⑯：地域公共交通部会長（飯塚市 地域公共交通対策課長）より説明。

連携事業番号⑰～⑲：移住・定住部会長（飯塚市 総合政策課長）より説明。

連携事業番号⑳：消防・防災部会長（飯塚市 防災安全課長）より説明。

連携事業番号㉑：人材育成部会長（飯塚市 人事課長）より説明。

【質疑応答の概要】

〇委員

医療関係で質問です。新型コロナウイルスの感染者が非常に多くなっています。今の第 7 波の後、この冬場に第８波が来そうな感じですが、病院の受け入れ体制がうまくいくのかが心配です。

〇飯塚市 健幸保健課長

感染症に関するものは福岡県が保健所で管轄しており、市ではワクチン接種などの対応をしています。従って、病床がどのくらい確保できているとか、感染された方がどのくらい入院されているといった情報自体を市が持っているものではありません。ただし、病床使用率や重症化率の局面が上がるたびに病床を福岡県内の医療機関で確保していただく協定が締結されています。

病床の確保については、福岡県は多少余裕がありましたが、医師会の先生方からは「発熱外来の対応が非常に厳しい」と聞いています。今後、抗原検査キットの申込方法など、医療の現場に人が集まらなくても検査できる方法の周知について、力を入れて対応したいと考えています。

○委員

各連携事業の成果指標に対して実績が書いてあります。これは、コロナの影響を受けている事業の成果については、「コロナの影響により」と明記するとわかりやすいと思います。それを全く書かずに、目標や実績について説明を受けても、よくわからない。数字だけで見ていくと、何の問題もなかったのかという誤解を招くのではないかと思います。また、たとえコロナ禍であってもこんな事業ができました、ということもあると思います。これは記録として残るわけですから、コロナの影響があったということは後世にきちんとお示ししていく必要が、私はあると思います。きちんと書いてある部分もありましたけれど。

○委員

私は頴田子育て支援センターを運営しています。この利用実績人数について、実際に利用した人たちが令和 3 年度に減っているのも、コロナ禍の影響があったからです。また、今まで各センター、部屋の中で何人という人数制限はなかったのですが、去年は特に、部屋の中には親子で○人までという人数制限があったから、こんなふうに利用実績が少なくったところもあるので、緊急事態宣言のときは休止だったことなども含めて書いていただければよいと思います。合同育児講座と言って各センターの関係者が集まる場合は、人数制限がなかったら 1 回で 120 人集まるようなイベントですけれど、入室人数の制限があるために減っている部分もあります。先ほど佐竹委員さんがおっしゃったように、そのようなことも書いていただけると、なぜ実績が減っているのかということがわかると思います。

○事務局（飯塚市 総合政策課長）

令和２年度と令和３年度は、コロナの影響でどうしても実績が落ちてしまう事業がありました。資料 3 の中で、それを明確に書いているものもありますし、一方で、コロナの影響によって明らかに実績が減っているにもかかわらず、それを書いていないところもあります。それにつきましては、もう一度この連携事業概要書を見直しまして、コロナの影響ということを明記したうえで、市長・町長で構成される形成推進会議に報告させていただこうと思います。

（２）第２次 嘉飯圏域定住自立圏共生ビジョン（素案）について

【説明】事務局（飯塚市 総合政策課長）より説明。

【質疑応答の概要】

○委員

スポーツ振興に関する連携事業が追加で提案されていますが、例えば施設の申し込みに関して、嘉麻市の施設の受付を飯塚市でもできるようにするなど、同じシステムを導入してウェブ上でどこの施設でも受付できればよいと思います。まずは体育施設から始めるということで。それと、これはお願いですが、例えば図書館で言うと、飯塚市のホームページでは飯塚市の図書館しか出てきません。そこに嘉麻市の図書館とか桂川町の図書館の情報も掲載されているようにしておけば良いのでは。子育て支援センターも同様です。病児保育の施設も飯塚市に２か所しかないわけですが、嘉麻市のホームページには病児保育の情報は載っていません。このように、各市町個別のホームページを見ないとわからないのが現状です。だから、ホームページで一体的に情報を掲載するなどの検討をしていただいたら、施設の利用促進に繋がるのではないかと思います。

○委員

似たような意見ですが、まず子育て支援センターや病後児保育について言えば、そういった施設を利用したいと思う方がすぐに調べられる環境が、やはり一番必要だと思います。コロナの影

響で、今までなら近所の人と相談したり、おせっかいを焼いたり、そういうことが地域ではあるものの、今は友達と会う事も少なくなりましたので、情報交換できないんです。今、「それはわからないからとりあえず役所に聞いてみよう」というのも非常に多いですよね。嘉飯圏域のホームページがより便利になっていくことが求められるのではないかと思います。それによって、行政の窓口の負担軽減にも繋がるのではないかと思います。

○委員

私も嘉飯圏域定住自立圏のホームページを見てみましたが、基本的に各自治体の移住サイトへのリンクで終わっていますので、そこの充実が必要かと思います。もう一つは、利用者目線での情報発信が欲しいと思いました。ここに移住を考えたとき、例えば医療はどうなのか。福祉は、教育は、あるいは交通はどうなのかという、移住する人の心配なことに対しての不安を解消するような書き方であったら、よりわかりやすいのではないかと思いました。各市町のホームページは施策の列挙でもいいかもしれませんが、２市１町での取組みのホームページがあるならば、それなりに書き方を変えてみたらどうかと思います。

○事務局

嘉飯圏域定住自立圏のホームページを立ち上げていますが、ご指摘のとおり内容を充実させきっていないという現状がありますので、今後、利便性の向上に繋がるように見直しを検討したいと思います。また、公の施設については、資料６の 28 ページ「圏域の将来像」の（２）の部分に赤字で加筆している取組みを進めることによって、相互利用促進に繋がっていくと思いますので、今後、令和 5 年度からの 5 年間の中で、2 市 1 町で検討していきたいと考えています。

○委員

この共生ビジョンの大きな目的が「定住」ということで、いかに人口を、自然減の部分はなかなか難しいので、社会減を少なくできるかということだったと思います。21 の連携事業一つひとつの取組みは十分評価できますが、その結果、人口増減がどうなったということがわからない。正直なところ、測りようがないというのもあるのでしょうけれど。

また、資料６（第 2 次ビジョン素案）の 9 ページの人口動態のグラフについて、データが 5 年刻みになっていて、その間の年がわからない。現在の共生ビジョンの 2015・2016・2017 年を見ても、結構振れ幅があるので、本当に 2020 年が傾向的に減ってきたものなのかというのがわからないので、間の年がわかるのであれば入れていただきたいと思います。

同じく資料６の 10 ページで、地域ごと人口の移動ですが、（現在の共生ビジョンの 9 ページとの比較において）福岡に出て行く人が減っているところと、田川からは人を引き寄せているという点は評価できると思います。問題なのは、飯塚・嘉麻・桂川の中での移動で、飯塚に集中する傾向にあるのはどのように評価したらいいかというのは、考えさせられました。

○委員

資料６の 47 ページ、今後の移住定住の促進のところで「新しい生活スタイルに適応した PR の手法」とあります。コロナの状況がネガティブな結果につながっていることはあると思いますが、新しい生活スタイルという意味では、コロナの影響がきっかけで、オンラインで仕事ができるから街の中で生活してなくても、少しのんびりと、ゆったりと生活をしながら仕事ができるようになったという若い方もいると思います。そういう方たちが移住・定住できるように。もしくは、緑の豊かなところを求めて街のほうから引っ越してこられる方たちもいて、そういう具体的な話が耳に入ったときに、こんなふうにすればいろんな手続ができますよ、住まいがこんなふうに探せますよ、といった（移住定住に関する）窓口の一本化ができればよいと思います。

また、農業をする場所を探しているという若い人たちには、嘉飯圏域は非常に適した場所だと

思います。例えば地産の農作物を使って若い人たちがお店を出すことができるとか。文字通り新しい生活スタイルを求めて活動している方たちもおられると思うので、産業も住まいも、統括した対応ができたらよいのではないかと考えながら、資料を読ませていただきました。

○委員

前回のこの会議で、移住定住の専門の担当課を作ったらどうかと発言しました。例えば、こちらに移住して農業をしたいという人のために、現在の２市１町で使える農地や遊休地に関する情報を提供できるようにするなど、先ほど報告のあった 21 の連携事業に関する情報を各部門で集約して、入口を一本化していただければ。移住定住の促進に関する担当課を作った自治体もありますので、検討してほしいと思います。

○事務局

全国的に、人口減少が喫緊の課題になっています。少しでも減り幅を緩やかにしたいというのは、どこの市町にとっても同じです。この圏域でも、具体的にターゲットを決めて移住・定住施策に取り組んでいるところです。圏域のホームページを通じた情報発信も含めて、ただ今のご意見を今後の検討の材料にしたいと思います。

○委員

桂川町は、駅に観光情報がわかるものを今これから作ろうとしているところですが、観光のことが非常にわかりづらいのではないか思います。あいタウンの中の飯塚市観光協会にお邪魔させてもらいました。とても楽しい資料がたくさんありますが、多分、一般の方はそこに行き着くのは無理ではないかと思います。そういうことも踏まえて、ネットワーク上で発信できるものをどんどん、もっと楽しい圏域なんだということを、より見えるようにしていただきたいと思います。

○委員

第２次共生ビジョンの施策体系を見たときに、「生活機能の強化」が柱としてかなり大きくなっていて、「結びつきやネットワークの強化」などは薄くなっていると思います。やはり圏域の活性化を図っていくうえで、人材育成、特に若者という部分が大事なのではないかと思っています。移住という形で外から来る人が増えることも大事ですが、今この地域に住んでいる中学生とか、若い人が地域に残る、地域の未来を考えていけるということが非常に良いのではないかと考えます。福岡県では今、「田川飛翔塾」という、田川圏域の２市８町が一緒になって中学生を対象にしたプログラムを組んで、その地域を担ってもらおうということで、それを県内各地で広げていく取組みをしています。人も地域資源の一つですので、「地域資源を活用した圏域活性化の促進」などのあたりで、若者という人材の育成についても触れていただければ、今後、そういった事業がより展開しやすくなると思っています。

○委員

新しい連携事業の「スポーツ振興」というのは、大賛成です。同時に、芸術文化の分野についてはどんなふうに議論されているのかと思います。「心身ともに」と言うように、豊かな心が育たなければいけない。それには芸術文化だと思います。そのあたりの検討はされているでしょうか。

○事務局

共生ビジョンの見直しの準備をする中で、新たに２市１町で取り組む事業がないか各担当部署に検討してもらいましたが、芸術文化の分野における連携事業は上がっていないのが現状です。頂いたご意見を踏まえて、今後、２市１町の担当部署と調整させていただきたいと思います。

５　閉会（飯塚市 行政経営部長挨拶）